

わたしたちの同窓生

<<98周年>>

会員数 27,870名

平成9年4月1日現在



同窓会報

椎の樹

1997. 4. 1 第11号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町20 電話(0273) 62-2585
発行責任者 斎藤 民
印刷所 ほその印刷

同窓生の皆様ご健勝で平成九年の新しい年をお迎へへの事とお喜び申し上げます。一昨年から昨年と引き続き世の中が何か不安な事が多くございましたが、本年は是非明るい安らかな年でありませう様に願っております。



より高い自己実現のために

前校長 高橋 克明

同窓会会員の皆様には日頃から本校に対して温かいご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。本年度の同窓会活動も百周年を目前に、斎藤民会長のもとに力強い活動をしていただき、学校として心強い限りであります。おかげ様も、皆様も母校も着実に発展しております。五月の県高校総体においては、昨年に引き続き総合三位、文化部においても各種コンクール等に入賞し、全国大会等に出場しています。また、球枝大会、スポーツの日、予餞会等の行事にも積極的に参加し、良き伝統を守っております。更に、進路においても、難関大学へ多数入学

覚める様な感激を覚えました。旅行委員の方もリッチな旅を企画して下さいました。本年も新しい委員さんにより美しい企画が用意されております様ですので、どうぞお参加下さいませお願いいたします。二月の新年会、引き続き三月に新しい会員をお迎へして古い伝統の中に新鮮な風を吹き込んでいただき、時代と共に生きる同窓会を強く感じました。年間を通じて皆様のお手元にお届けする会報「椎の樹」の編集に当る会報委員の皆様も会員のご期待に添える様苦勞を重ねております。するなど、文武両道にわたって成果をあげております。これらの実績は、先輩皆様方の築いていただいた長い歴史と伝統のおかげであること、いつも心に留めております。そして、我々教職員に課せられた使命は、これらの輝かしい実績を更に伸ばし、発展させることだと思っております。今、教育界においても二十一世紀に向けて、今までの教育観の見直しが求められています。しかし、教育には「不易流行」という部分があり、容易なことではありません。今問われなければならないのは「だれのための、何のための教育であり、学校であるのか」と思っています。本校においては、今後生徒のより高い「自己実現」のために、学力向上と共に、基本的な生活習慣の確立も大切にしながら、この高女の特色づくりのために、教職員一丸となって指導に当たる所存であります。なお、小・中学生の減少に伴い本校でも、平成九年四月入学生より一学級減になり、一学年八学級になり、この学級減を積極的に捉え、本校教育のより充実の契機としたいと考えております。最後に申し上げますが、本校同窓生皆様方のご健康、ご発展を心から祈念し、母校への更なるご理解、ご協力をお願い申し上げます。



ご挨拶 同窓会長 斎藤 民

いよいよ母校百周年を祝しての記念行事の準備段階に入っております。先づ八年度の総会で決定いたしました同窓生による記念誌の発行につき準備委員会を経て過日刊行委員会が発足いたしました。同窓生の各期からのご執筆をいただく事で期別幹事の皆様には格別のご苦勞をいただく事になりますと存じます。百年という二度と無いこの輝かしい年に居合わせた私達の幸を思い全力をあげて意義ある年にしたいと思っております。母校でも記念事業を計画される事と存じますが、何卒皆様の絶大のご協力を賜ります様お願い申し上げます。ご挨拶にさせていただきます。

新校長紹介 小栗 宣明 先生
昭和14年1月10日生
松井田町出身・高崎
郡馬町在住、東京教育大、前市女、教育センター、利根商、忍女。《楽しみ》中高年の山歩きの流行に便乗中。



飯塚百合子(高20回)恒例の新年会が二月二日、二百六十余名の同窓生の参加を得、高崎ビューホテルはるなの間にて盛大に開催されました。斎藤民会長の御挨拶、高橋校長、戸部教頭より御祝辞を頂き、外山事務長の乾杯で祝



新年会開催

宴が始まりました。各テーブルごとに賑やかな談笑の中、アトラクションへと移りました。本島阿佐子さん(高37)のソプラノ独唱、澤田まゆみさん(高44)のピアノ伴奏で「至福・アウエマリア(シューベルト)・お菓子と娘・落葉松」の4曲を演奏。美しい歌声が会場を魅了しました。続いて熊倉京子先生(女37回)の日舞、清元「青海波」をお正月にふさわしくとり舞って下さいました。宴たけなわとなったところで、指揮松本康江さん(高14)ピアノ伴奏田村節子さん(高14)による同窓会合唱団が清らかなハーモニーを披露、高女らしい新年会となりました。事務局からのお知らせ、高20回から高21回への当番期の引き継ぎが行なわれ、最後は全員で「早春賦・花・校歌」を熱唱。いつもながら若々しい会長の指揮に心とみまします。楽しいひとときがまたたく間に過ぎ、別れを惜しみつつ閉会となりました。



同窓会総会 平成8年5月1日 母校・椎樹館にて

朝以来の雨が、椎の葉に音もなく降り注ぎ、薄紫に咲き誇る藤の花が、正面玄関を典雅に彩る、5月1日、母校椎樹館に於いて、同窓会総会が開催されました。雨の中出足が心配されましたが、案ずることもなく、同窓生の皆様は、11時前から順次御到着になり、和室のあちらこちらでお話を花を咲かせていらっしゃいました。同窓生の方から美しい牡丹のアートフラワーを寄贈していただき、より一層会場が華やきました。楽しい会食の後、午後1時から、吉村副会長の開会の辞で総会が始まりました。斎藤会長は100周年記念事業への抱負と決意をお述べになりました。高橋校長の祝辞に続いて、市川PTA会長、清水教育振興会長より御祝辞を頂きました。来賓紹介の後議事に移り、平成7年度事業経過報告、会計決算報告、会計監査報告がなされ、8年度事業計画案、会計予算案がそれぞれ承認されました。続いて100周年記念事業の内容説明がなされ、事務局からの連絡、旅行委員会の今井委員長から、説明と参加ご協力をお願いがありました。また京浜地区同窓会の林会長の御挨拶があり、和気あいあいのうちに議事が済みました。最後に全員が起立して校歌を合唱し、吉野副会長の閉会の辞をもって、総会が終了いたしました。(高20回担当)

同窓会入会式

入会のごときは 着慣れた制服にさよならをすと思うと感慨無量のものがあります。今、卒業式を終えて高女での青春の素晴らしい思い出の一こまが鮮明に浮かんで参ります。数々の御指導を頂きました諸先生方の教えを生涯の宝として大事にしていきたいと思っております。これから私達は歴史と伝統のある高女の同窓生の一員として加えて頂きますことは喜びでありますと共に身の引きまします思いが致します。同窓生としての自覚をもち、温故知新を心して伝統を更に



発展させていくよう努めていきたいと思っております。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。平成九年三月一日 新入会員代表 綾小路尚子

母校100周年記念「同窓会合唱団」募集中
※連絡先 笹本幸子(女44) 0273(63)8832 佐藤寿子(女46) 0273(22)2138
皆様、お誘い合わせの上ご参加下さい。(詳細は、後日連絡いたします)

1996年度 総会記念講演

環境を考える

大川 悦子 (高20回)

椎樹館正面玄関に飾られた校内理事の先生のお心配りの藤の花房が美しく、早月の雨を湛りぬける同窓生のお出迎えをしていました。

講師の菊地慶四郎先生は、高女が丁度この地に移転した時に在職されており、思惟庵の露地の植木の十二年の歳月の葉ちつきを遥かな目をして語られ講演会が始まりました。

『私達の住む地球は太陽系の中で唯一生命体のある星です。金星は太陽に近すぎ水が気体になり、火星は離れすぎていため水が凍り個体になってしまします。地球だけに水が液体として存在し、有機物が海の中から発生しました。ですからヒトの体の約70%が水分というのでも頷けます。地球の誕生から現在までを

一年間に例えてみますと、ヒトの出現は大晦日の12月31日の夜九時頃になります。僅か数時間の割合のヒトの進化であるにもかかわらず、人間が自然をそして生態系を壊しているのです。

物が絶滅していると言われていいます。これも人間の仕業であり、生物はいろいろな多様性があるからこそ安定します。山奥のブナの林はあたたかもスポンジの様に水を溜める能力があります。その地下水は十年〜二十年たつて湧き出てきます。群馬県は11億トンの保水量がありますが、関西や九州ではブナ林を針葉樹林にしてしまったため、日照りが続くと水不足が起こるわけです。水の確保と安全性の面においても群馬県はまあ良い環境にありますが、水源から各町村を通過する毎に、水は幾度となく消毒・殺菌を繰り返して、富栄養化が進むのです。人間は、元来自然界には存



文芸欄

井戸

角田弘子 (高6回)

少女の頃みた
井戸替えの水は不思議だった
深い底の方から湧き出す水は
涼しい響きを伝えてくれた
ゆっくりと満ちて来る水は
水位を保って静止した
時をかけて澄んでくる水は
生命の泉であった

わたしは何度も井戸杵を覗いて
浄化して来る水を持った
△井戸の精に憑かれる▽
と母はきらったが
水に映る姿に
あの頃わたしは
美への希いを沈めていた
口紅をひくとき 鏡の中で思い出す
水の音や水の色を……
自分の中に
井戸を持ちたいと思うのだ
湧き出す水が響く
井戸を掘らなければと……

詩集『明りとともす樹』より

在しなかつた物質を創り出したため、それを分解するバクテリアがあまりありません。農薬や石油合成物が川に流れ出ると、先ずプランクトンが汚染された次に小さな魚がそれを食べ濃縮され、次に大きな魚が食べさらに濃縮され、その発ガン性を持った魚を人間が食べることとなります。

のイニシャルのことです。酸性雨が地中のアルミニウムを溶かし、それを多く含んだ水を飲み続けるとアルツハイマーになるのだそうです。先生は恐ろしいことをさりげなく私達に啓発して下さいました。子孫に美しい地球を残せるのは、そう私達一人ひとりの「気づき」「思い」「行動」といった意識のほかならないのです。

講師紹介

角田智恵子 (女39回)

菊地慶四郎先生 (昭和12年東京生れ) は昭和38年4月、東京都立大学理学部生物学科

松樹館だより

修学旅行と「古都」

前教頭 戸部正行

群馬県の高等学校で修学旅行を実施している学校は80校で、方面として九州39校、北海道7校、沖縄4校、飛行機利用の高校50校、平成9年度入学生から海外への修学旅行も実施の方向で検討されていると聞く。しかしながら、九州や北海道で実施した学校でも、又、奈良・京都へと考え直す傾向もあり、海外修学旅行等も含めて、修学旅行が一つの転機を迎えていることは確かである。しかし、高女には脈々とした修学旅行の歴史と実績があり、それは「古都」

という手作りの冊子に支えられていたことは事実である。修学旅行の歴史は古く、明治40年頃より宿泊を伴う旅行の記録がある。大洗方面あるいは伊香保に一泊している。その後水戸や大洗方面への旅行。大正期には東京、鎌倉、江ノ島方面へと範囲も広がりました。昭和10年頃に関西方面へ四年生が9日間も旅行している。その後関西方面への旅行が定着したが、昭和18年には戦争のため中止された。その後関西方面への旅行が復活されたのは昭和25年である。往復車中二泊、奈良と京都に一泊の旅で、出発は高崎駅発午前二



を卒業後直ちに群馬県高等学校教員になられた現在沼田女子高校の教諭をしておられます。その間に昭和51年4月から59年3月迄の8年間高崎女子高校で教鞭をとられました。著書『永遠(とわ)の尾瀬』上毛出版文化賞受賞。『尾瀬』その自然の回復。みやま文庫等々。役職・尾瀬保護専門委員・群馬県自然公園等検討委員等講演を拝聴し大気汚染、地球環境汚染等を憂い自然保護特に尾瀬の自然保護に取組まれておられる情熱は並々ならぬものと敬服致しました。住所 沼田市坊新町四丁目22

〔道子〕私の女学生時代を思い出しますと、部活動のテニスにて県大会に出場するため毎日練習に明け暮れたことを思い出します。市川さんとペアを組み、その頃国語の先生であられた高井先生に熱心なご指導をいただきました。ちなみに、今はなき母の山田さだも、第2回の卒業生です。4代にわたつて卒業させていただきました。〔陽子〕私の高女時代は、戦後10年という事で、まだまだ生活が苦しい時代でした。それでも私にとっては青春時代で、3年間音楽の受験勉強に明け暮れていました。夢は大きく膨らみ、楽しくまた、真剣な毎日だったことを思い出します。文化祭や県の芸術祭でソルベীগの歌等を歌わせていただいたのも、良い思い出です。

松原隆介先生のもと、高校芸術祭でオペラのアリアを歌わせていただいたのが、私にとって一番の思い出です。とに生徒の手作りによる修学旅行が行なわれ、県下の高校の模範として多大の影響を与え続けることになる。その中心な役割を担ったのが「古都」であった。関西育ちの剣持常昌校長の関西への憧憬と、若き国語教諭、須藤泰次先生の情熱に負うところ大である。『古都』は高女卒業後に再度関西を訪れる時の良き案内書とされ、地元の人達から所望されることもあるという。高女の先見的指導性の結実した典型的な例と言える。悲しい結末に終わったものの「高女山の家」の建設と活用も、指導者の卓越した識見と、同窓の先輩達の実行エネルギーを如実に物語るものであった。

四代高女の歴史

仁井田道子 (女32回)
仁井田陽子 (高9回)
永井旧姓仁井田和子 (高41回)



〔和子〕私が入学したのは、高女が現在の場所に移って数年。これを初めとして二年の秋に奈良・京都への修学旅行が定着し、紅葉のすばらしさと巡り合うことになる。又、初めて「旅行委員会」を結成し事前学習や旅行実施要項の検討等、教師の良き指導のもと

最近の修学旅行



とに生徒の手作りによる修学旅行が行なわれ、県下の高校の模範として多大の影響を与え続けることになる。その中心な役割を担ったのが「古都」であった。関西育ちの剣持常昌校長の関西への憧憬と、若き国語教諭、須藤泰次先生の情熱に負うところ大である。『古都』は高女卒業後に再度関西を訪れる時の良き案内書とされ、地元の人達から所望されることもあるという。高女の先見的指導性の結実した典型的な例と言える。悲しい結末に終わったものの「高女山の家」の建設と活用も、指導者の卓越した識見と、同窓の先輩達の実行エネルギーを如実に物語るものであった。

同窓会だより



第45回京浜地区同窓会開催

96年度幹事一同(高21)

今年の京浜地区同窓会は七夕に開催されました。品川のパシフィックホテルにあるレストラン「浮殿」には百二十名を超す同窓生が集い、和気あいあいのうちに会は始まりました。

広い窓からは美しい庭園が望まれ、幹事の石塚、増澤の演奏するピアノ、弾き語りが増澤の盛り上げます。今年にはピュフェ式のお食事でしたので、交流もよりいっそう盛んだったようです。会場には明るい話し声と華やかな笑い声が満ち溢れればかりでし

時代の変遷と悠久の美を訪ねて —秋の東京・鎌倉—

茂田由美子(高21回)

秋晴れに恵まれた10月20日、21日の二日間、「歴史との邂逅」と銘打って、東京・鎌倉方面へ行って参りました。51名の同窓生を乗せたバスは一路東京へと走りました。今まで何気なく見ていた東京の風景もガイドさんの細かな説明のお陰で新鮮に、そして新しい発見をもできました。最初の目的地「浜離宮恩賜庭園」は、都会のど真中にも拘らず静かな佇まいで私達を迎えてくれました。美しく手入れされた庭園の中で日常の忙しさ、喧噪を忘れ、思わず緑の空気を胸深く吸い込みました。園内を散策する同窓生も皆、微笑に満ち、すがすがしく美しく見えました。次の「東京都庭園美術館」は旧朝香宮邸を

美術館とし公開されたもので、随所にアールデコ様式をとり入れ、照明壁、柱、家具調度に至るまでヨーロッパの香りの、ため息の出る建築でした。折しも、北大路魯山人の作品を展示しており、その作品に触れる事ができました。エネルギーで心暖まる焼き物、書、篆刻から、魯山人の人となりを感じました。その後、新装なった目黒雅叙園でフランス料理をいただきながら、庭園、建物、魯山人の話に花が咲きました。車中歓談しながら箱根湯本に到着しました。宴会では、お腹いっぱいのご馳走と思い出話、ビンゴゲーム、幹事さん達の美しいコーラスと楽しい時を過ごしました。斎藤民同窓会長様

指揮のもと校歌を合唱する皆の顔は、女学生になっていました。翌日は鎌倉へと向いました。車窓よりキラキラ輝く海と、頂に雪をかぶった富士山を眺めつつ、ガイドさんの軽妙洒脱な話術にあつという間に鶴ヶ岡八幡宮に到着しました。小町通り、若宮大路を散策し、沢山の土産を抱え、バスに集合しました。昼食後、横浜ベイブリッジ、臨海副都心など変わりゆく東京湾岸を眺め、一路帰途へつきました。二日間の思い出と、来年の再会を約束しお別れいたしました。目で、口で、耳で楽しい旅を企画し、お世話下さった幹事の皆様ありがとうございました。

た。

のかもしません。

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

しばらくおしゃべりとお食事を楽しんだ後、来賓の先生方のお話に耳を傾けます。熊倉京子先生、久保田浩司先生、小塚好弘先生のお話からは高女時代が懐かしく思い出され、高橋克明校長先生のご挨拶からは現在の高女が想像されませんでした。

すべてが激しく変わったこの数十年、女子教育はもったいなく、そのなかにあって高女はリーディング的存在であるようです。そこを巣立つ後輩たちには職場や地域での活躍が期待されますが、この京浜地区同窓会もその受け皿として、大きなネットワークの機能を果たすことになる

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

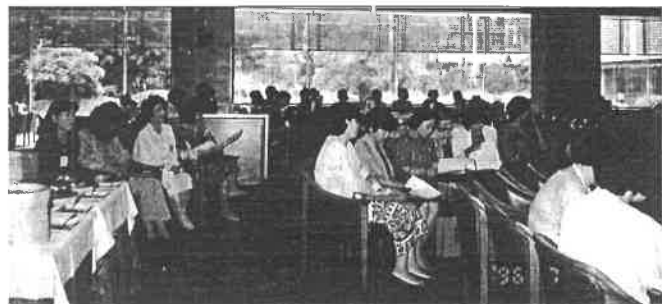
の

の

の

の

の



昭和の時代を共に生きて来た、私達は、卒業以来早くも五十七年の歳月が流れました。戦中、戦後の厳しい世相を高女の卒業生のプライドを胸にいろいろな困難を乗り越えてまいりました。それだけに、私達は、友達とのつながりは強く結ばれており、昭和が終り平成元年を迎えるや、松の会を結成いたしました。

これは月二回中野公民館に集り、編物教室やお互の健康を保つ為、クラスメイトの丸茂先生にお話し健康講座を開いたり、いろいろな勉強の場を発足、現在は県外も加入三



女37回だより 武藤静代(女37回)

新緑の能登路を巡る

輪島・祿剛崎・和倉

女46回さつき会幹事

福田和子

さつき会恒例の親睦旅行が今年も開催されました。三泊三日は、千里浜渚ドライブウェイ・金沢兼六園と見聞を広め、充実した三日間の旅を終えました。旅行に参加された大原京子さんが短歌を寄せてくださいました。

丈低くみどり乏し黒松の岸より展く海の静けさ。車にも人にも会はず海岸の小さき町は異国にも似て

高21期幹事会

平成八年十一月四日、深まりゆく秋の夕べに、私達高21期幹事は久しぶりに集まりました。それぞれ旅行委員、会報

8組、丸山ちひろ9組。

期別活動

同好会活動

紫陽花会

富沢初枝(高19回)

月日のたつのがほんとうに早く感じられる今日この頃です。高19回三年一組のクラス会は今年で十回を迎えます。卒業後二十年振りに開催された同期会で話が弾み「今度クラス会をしないか」という事がきっかけで翌年七日レストランで一回目がスタートしました。幹事さんの計らいで毎



岡村先生を囲んで

年おいしい料理に舌鼓をうちながらお昼の一時を岡村先生を囲んで「おしゃべりに花を

咲かせる」気軽な会として続いています。毎年梅雨時の会なので愛称も「紫陽花会」と決定。毎年四人の幹事さんが趣向をこらして会を盛りあげてくれます。今回は体調をくずされた先生と一緒にお様も参加され早速クラスの一人にさせられ「ちゃん」付けで呼ばれていました。幹事さんのユーモアに富んだ司会で大変楽しく過ごしました。このクラス会は先生もとても楽しみにされているご様子。ずっと続けてゆきたいと思えます。

平成9年度 新睦旅行のお誘い

横濱名所めぐりと小湊温泉グルメの旅
・日時 10月26日(日)~27日(月)【参加費 35,000円】
◎26日(日) 高崎(8:00) = 横濱三溪園 = みなとみらい21: インターコンチネンタルホテル(昼食) = 久里浜~フェリー~小湊温泉(泊)
◎27日(月) 小湊(9:00) = 鴨川シーワールド = 誕生寺参拝・昼食(懐石、精進料理) = 高崎(18:30着)
※申込 9月1日(月)10時~15時 母校椎樹館事務室 TEL0273(62)2585

旅へのお誘い

編集委員、同窓会記念誌刊行委員と協力ながら同窓会のお手伝いをさせて頂いていますが、なかなか全員顔を合わせることができませんでした。初めて出席した京浜地区同窓会、亜細亜大学教授になった同期の矢島美都子さんのこと、青年教師、吉永哲郎先生も今年は停年退職、高崎市史の編纂に携わっている山口聡先生、亡くなった三ヶ島先生のこと、など、夜は更けていきますが、なんと話の中心は来年の当番期のことです。高21の皆さん5月の総会、秋の旅行、そして新年会へご参加ください。これを機会に同窓の集りも開きたいと思っております。よろしくお願ひいたします。連絡お待ちしています。

関口伸子(尾林) 6組、佐藤春江(大山) 5組、丸毛芳江(山岸) 1組、茂田由美子(相場) 6組、神部一恵(須藤) 7組、茂木由紀子(境) 8組、丸山ちひろ9組。

同窓会 総会開催の お知らせ

さわやかな春の風に心躍らされる季節となりました。同窓の皆様にはお元気で過ごすごのことと存じます。

さて、恒例の総会を下記により開催いたします。

お誘い合わせて、多数ご参加くださいますようお願い致します。

.....記.....

・日時 平成9年5月1日(木) 12時より

・場所 母校 椎樹館

・日程 12:00~13:00 昼食
13:00~13:40 総会
14:00~15:30 講演

講師 持田 章先生
元高女教諭

演題「高女90年史を語る」

会費 1,000円

※別幹事は必ずご出席ください。

※同窓会維持費中間報告

(H. 9. 2. 10 現在)

【収入の部】
維持費納入金 4,439,000円
(納入人数 4,302人)

預金利子 3,958円
計 4,442,958円

【支出の部】
会報椎の樹第11号
印刷代、発行諸経費

(予定) 1,400,000円
本部会計補助 500,000円

計 1,900,000円
残 額(予定) 2,542,958円

・前年度までの維持費合計
1,325万円は100周年基金として積み立てられています。

・同封の振込用紙に卒業回期を明記のうえ、年間1,000円の納入をお願いします。



平成9年度行事予定

5/1(木)	総会および講演 母校椎樹館
5/31(土) 6/1(日)	第14回椎樹祭参加 書道展
10/26(日) ~ 27(月)	親睦研修旅行 横浜・房総・小湊方面
2/8(日)	新年会 高崎ビューホテル
3/2(月)	新会員入会式 母校椎樹館
4/1	会報12号発行

- ※会議
- (1) 常任幹事会
 - (2) 期別幹事役員会
 - (3) 椎樹祭準備委員会
 - (4) 旅行企画委員会
 - (5) 会報編集委員会
 - (6) 記念誌刊行委員会
 - (7) 当番期会議(高21)
 - (8) その他必要による

※ 総会、旅行、新年会、合唱等諸行事へご参加ください。

母校の近況

(平成9年4月1日現在)

- ・新入会員 380名
- ・新卒業生の進路状況(のべ数)
国立4年制(78)、私立4年制(330)、短大(0)、各種(0)、就職(0)、その他(0)。

・教職員の異動(敬称略)
退職：高橋克明、竹内暉男、武藤 毅
転任：戸部正行(太女教頭)
福田 賢吾(前東教頭)
高橋俊夫(中央)
久保田順一(浜女)
小池康倫(浜女)

着任：
石田 仁(富東)
佐保初江(藤女)
中山 栄(藤岡)
鈴木千春(新潟国際情報)
関 弘子(前高養)
茂木悦子(富東)
藤井美佐子(尾瀬)
小栗宣明(校長・沼女)
鹿野福次(教頭・伊東)
萩原一郎(前橋)
金井尚之(中央)
上方 孝(中央)
平方 孝(富岡)
吉野信幸(安中)
中島千登世(産休補助)
松原昭子(前女)
山口宏明(地公臨)
羽鳥君子(市前橋)
長岡好和(桐女)
堀口ほづみ(高崎)

アマソンの古いオペラハウスでの「エグモント」
有水(山)奈都子 (高14回)

私は一九六八年三月から七年二月迄の4年間、日本総領事館に勤務する主人についてブラジルはアマソンの河口近くの都市、ベレインに住んでいました。今ベレイン市は人口百万人を越える都市になりましたが、当時は六十万人、街中の主要道路の両側には三階建の商店より高い鬱蒼としたマンゴーの木の木が連なり、その実が落ちて車の屋根をへこませたり、貧しいストリートチルドレンのおやつになったりしていました。南緯4度に位置するため気温は一年中日本の真夏のようなですが、夕方になると激しいスクールが一時間位降り、道の汚いものを皆洗い流してしまいます。夜は一年中24度位になるので、寝つかれないという程ではありませんでした。

ベレイン市近郊には七千人位の日本人移住者が居りました。ジャングルを開拓して胡椒を栽培している人や、近郊で野菜を作り、アマゾン河沿いの市場に店を出している方達も居りました。毎回外出する度に誰か日本人に会う程です。そのベレインの街の中心地にブラッサ・ダ・レプブリカ(共和制広場)という大木が鬱蒼と茂った三角形の広場があり、ここにオペラハウス「テアトロ・ダ・パス」があります。一九九〇年から一九二〇年迄、アマゾン天然ゴム景気に湧き、マナウスとベレインにヨーロッパから輸入した石材で立派なオペラハウスが建ち、ヨーロッパのシズンオフの間はイタリアオペラ一座がそっくり、ここアマゾンの中心都市で公演していたとのことです。今は重い熱帯の夜気の中にひっそり静まり返り、年に数回コンサートが開かれる程度ですが、ベレインには当時、大学は一つ、連邦(国立)パラ大

学がありましたが、その付属の音楽演劇学校がベートーヴェンの「エグモント全曲」を上演するというごでした。この曲の全曲楽譜が一九六〇年後半に見つかりその初演を行うのでソプラノの役をやらないかとお誘いがありました。公演の日には相当賑やかでした。地方紙にも第一面三段抜きの記事が出て、「日本の娘、エグモントを歌う」というものでした。演出家マルボ・ジャナッチーニ氏は日本へ留学した関係から歌舞伎からヒントを得て、演出も派手で二階の一つの棧敷席から中世風の紋章の付いた大きな旗を揚げたり、行列が観客席の間の通路から舞台上に登場したり、地方紙の芸能記者の頭を悩ませたようです。

その後この「テアトロ・ダ・パス」では地元ソプラノ、マリア・モナルカさんとブラジルの歌曲を主としたジョイントリサイタルもしました。日本文化の夕べでは私が、齋藤民先生、四家文字先生から叩き込まれた日本歌曲を7曲

歌う機会もありました。日本を後にして、地球の裏側に移住していった人達。再び故郷を見ることあるだろうかと思いを馳せる人々と歌う「うさぎ追いかの山、小鮎釣りの川、夢は今もめぐりて忘れがたきふるさと」。この歌は特別なものでした。

あれから25年、新天地を求めてブラジルに渡った人が、またその人達の子供、孫が、今度は日本で豊かな将来の可能性を見出そうとやってきています。奇しくもその人達に私は、ポルトガル語で聖書の中指を指している真の幸福に至る方法を教えるというボランティア活動を忙しく行っています。大阪定住以来、音楽教室も16年になりますが、「教えること即ち沢山のことを学び続けること」という毎日を過ごしています。

連覇した実績が評価され、昭三八年県から表彰されました。その祝賀会には、旧制新制のOGが多数出席してくださいました。祝賀会だけで終わらせたくないという意見が多く、翌三九年は東京オリンピックの年でもあり、現役選手からオリンピック選手をという期待と、部員への応援、そして会員相互の新睦を図るという趣旨で会ができました。

会長は、SYSスポーツの落合玉江さんをお願いしました。発足から三十有余年、その歩みは決して華やかなものではなく、時には会の存続が危ぶまれたこともありましたが、その後、母校に松樹館が建っ

たので、会名を改めました。現在会員は一七五名、部員の合宿の練習を見ては現役時代を思い出して、試合の応援に行っている胸を高鳴らせています。陸上は会員の人生に多少の支えになっているようです。

緑影会(バレー部)
関 良江(高4回)

バレー部のOG会は昭和7年卒業のメンバーから現在毎年卒業するバレー部のメンバーを包括し名簿が作られています。これを基に母校創立の節

100周年に向けて角田智恵子会長を中心に地元在住の十数人が集まって頑張っています。バレー部の部活の体験者は是非原稿をお寄せ下さい。送付先：高崎市萩原町1400-19 関 良江 宛

◆二年後の母校創立百周年にむけて、同窓会記念誌刊行委員会が発足しました。時代の移り変わりで母校と共に刻まれた同窓生の足跡は、女性の歩んだ一つの歴史ともいえましょうか。皆様のご協力をいただき意義ある記念誌の発行を願っています。◆阪神大震災から二年余経ちました。いかがおすごしでしょうか。同窓会一同思いを馳せながらこんな声があがりました。阪神地区同窓会があつたらいいでしょうね。と。いかがなものでしょうか。◆いつまでもお元気であつて欲しいとは、恩師への変わぬ思いです。「椎の樹」で先生の御様子をおうかがいであればと思います。

同好会活動

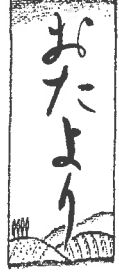
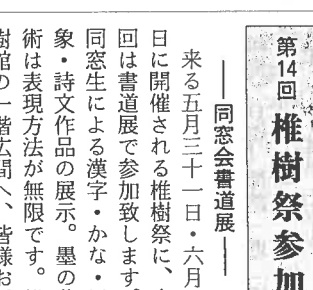
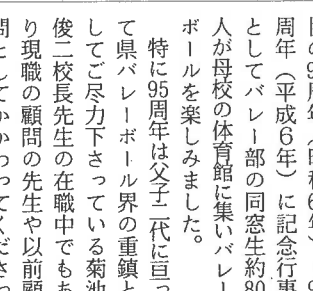
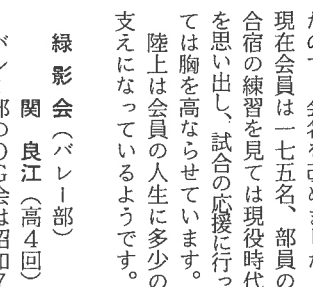
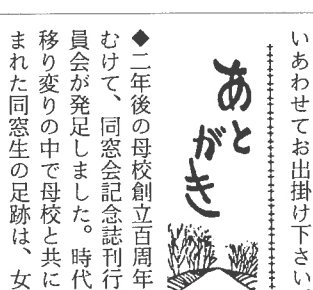
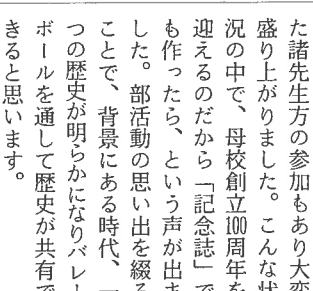
陸上部OG会(旧松樹会)
小山フサ(高4回)

松樹会は、昭三八年に誕生しました。県の学校対抗で五

同窓会記念誌刊行委員会からお願い

同窓会記念誌刊行委員会からお願い

◆二年後の母校創立百周年にむけて、同窓会記念誌刊行委員会が発足しました。時代の移り変わりで母校と共に刻まれた同窓生の足跡は、女性の歩んだ一つの歴史ともいえましょうか。皆様のご協力をいただき意義ある記念誌の発行を願っています。◆阪神大震災から二年余経ちました。いかがおすごしでしょうか。同窓会一同思いを馳せながらこんな声があがりました。阪神地区同窓会があつたらいいでしょうね。と。いかがなものでしょうか。◆いつまでもお元気であつて欲しいとは、恩師への変わぬ思いです。「椎の樹」で先生の御様子をおうかがいであればと思います。



第14回椎樹祭参加

同窓会書道展

あとも

あとも

あとも

あとも

あとも

第11号編集委員会
同窓会長・斎藤民(女26) 副会長・角田智恵子(女39) 吉村晴子(高5) 吉野烈子(高9) 編集委員長 編集委員
笹本幸子(女44) 金井幸子(高3) 岡田俊子(高4) 善如寺尚子(高17) 設楽多恵子(高18) 綱島千米子・植原麗子・武井治子(高19) 高原京子・斎藤信子(高20) 佐藤野江・丸山ちひろ(高21) 牧野淑子・田中和子(高22) 加藤寿美子・渡丸俊江(高23) 事務局・関弘子(高23)